

あいな里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

外来種と生態系

セイタカアワダチソウ、ブラックバス、ウシガエル、アメリカザリガニ、ブルーギル：あいな里山も、外来種問題は避けられない状況になっています。



かい掘り作業の様子

国営明石海峡公園神戸地区には希少な動植物が生息しています。しかしその一方でブラックバス等の特定外来生物の生息も確認されています。

平成18年11月4日に「ため池・湿地帯の生き物保全グループ」によって、園内のた

め池の一つで生物調査を目的とした「かい掘り」が行われました。「かい掘り」というのは、ため池の水を抜いて、ため池の補修や池底の泥を取り除く作業のことです。



捕獲された外来種

今回の発行は2月上旬頃の予定です



ため池・湿地帯の生き物保全グループのみなさん

これらの外来生物を持ち込まないようお願い致します。



炭焼き・火入れの様子

トピックス

- 里山を舞台にした取り組み
- 第4回MP検討委員会
- 外来種と生態系
- あいな里山公園における環境教育とは

冬のあいさつ

寒くなって、温かいモノが恋しい季節になってきました。現場事務所（藍那山荘）には薪ストーブが設置されていて、これからの季節、里山整備によって発生した薪で暖をとる日々が続いていきそうです。

同じく、炭焼きもこれからが本格的な季節に突入します。寒い空気の中を、1本の煙が昇っていく情景は、なんとも風情を感じるものです。消臭、吸湿、防音と色々な効果が期待されている炭ですが実際に、まっすぐ綺麗な炭を焼くには、かなりの技術が必要だそうです。

製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944
kobe@kokueiakashi.go.jp
http://www.kokueiakashi.go.jp

あいな里山公園における環境教育とは ～「環境と生命(いのち)」教育を通して～

環境教育は、環境問題を解決するためだけの教育ではなく、その考え方はもっと広く、まず「心豊かな若者たちを教育する」ことであり、次にその結果、もし環境問題が生じたり生じかけたりすると、「感性が鋭敏な若者」は心が傷み「主体的に環境活動を行なう」、そのような若者を育てることである。

そして環境教育の目的は「環境と生命」の教育を通じて持続可能な循環型社会を実現することである。そのためには、自然環境、社会環境、心の環境すべてに関わる「人間の環境」をそれぞれの分野で陶冶することである。

環境教育の諸目標を達成するために、自然環境であれ、社会環境であれ、さらに心の環境であれ、それぞれの環境の一つのテーマを選び深めることで、つまり登る道は違っても、同じ山の頂上（持続可能な循環型社会）に達するであろう。たとえば里山の一羽の小鳥の観察から出発して、鳥とその食性との関係、鳥が生息する生態系、さらに人間との関わりへと広げることができよう。

こうした自然における環境と生命の教育を通じた原体験が、学校で学んだ「知識」を生きた「生活の知恵」に変えるのである。その場合のテーマは、里山活動を通じて、自然の生態系と里山の環境文化を主要な内容とすることができる。かつて里山の生活は町や都会の生活とも深く結ばれていたことを知り、循環型社会であったことを学ぶことができる。

こうして、子どもたちや市民はあいな里山における環境教育の活動によって、自然の仕組み、農作業、環境文化などを知ることができる。具体的には、自分たちが米や野菜を植え、世話をし、そして収穫する体験を通じて里山の暮らしを都会の人たちが体験することができる。したがって「あいな里山公園」は、都市の人たちにとって、いわば第二の心の故郷となろう。さらに、そのような自然生態系について知るローカルな環境活動から、

ネットワークを広げてグローバルな地球環境問題の解決へとつなげることができよう。そのネットワークの出発点は、すでに活動している団体と手をむすび協働（パートナー）を組むことである。

甲南大学環境総合研究所
所長 谷口文章



ひょうごオープンカレッジ甲南大学コース（主催：ひょうご大学連携事業推進機構）（2006年12月3日）

